次なる茨木へ。

茨木市脱炭素ニュースレター NEWSLETTER

Vol. 1
2026.10.23

茨木市では、2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、市民・事業者等の各主体による脱炭素の取組を後押しすることを目的として、「脱炭素プラットフォーム」を開催しています。脱炭素化の取組は、地球環境を守るだけでなく、私たちの暮らしの質を向上させることにもつながります。ともに持続可能な社会の実現をめざして、具体的な取組を考えていきましょう!

第1回ワークショップを開催しました

令和8（2026）年9月30日に第1回のワークショップおよびセミナーを開催しました。 本会では、前半に近畿経済産業局と大阪府から令和8年度の支援内容等、浜松市から地域脱炭素の取組についてご説明をいただきました。茨木市の補助事業等も活用し、省エネ化や再エネ導入を進め、排出量の削減とコスト削減を実現した市内事業者の事例として、中央精機株式会社の取組を紹介しました。

後半は、参加者が排出量削減を進めたい「チャレンジャー」、脱炭素サービスを提供する「サポーター」に分かれ、2030年に目指す姿の実現に向けた分野別の取組について、ワークショップを実施しました。 残り2回のワークショップと意見交換を通じて、地域全体での脱炭素の取組を形にしていきます。





参加事業者（公表可・50音順）

学校法人藍野大学、イオンモール（株）、茨木商工会議所、浦川トランス工業（株）、（株）エコ・プラン（株）、（株）大口油脂、大阪ガス（株）、大阪よどがわ市民生活協同組合、関西電力（株）、京都信用金庫、グリーンライフ（株）、東京海上日動火災保険（株）、Dreamdoor夢羽音（ゆずね）、日本たばこ産業（株）、阪急電鉄（株）、響珈琲豆直売所　ほか

挙がった意見の一例

まず動き出したい取組の案
- ペットボトルキャップの回収
- 行動変容アプリの活用
- 省エネ診断を受ける　など

重点的に進めたい取組の案
- 食品ロス削減の取組
- 廃食油回収スポットの増設
- 自社にあった支援制度の活用　など

感想

- 多種多様な業種の企業・団体が集まることで、各企業・団体がこれまでに取り組んできた事例や知見を共有し、それらをヒントにすることで、グループワークでの提案をより実現性・継続性の高いものにすることができた。
- グループワークで、それぞれの強みを生かした具体策を考えたのが印象に残りました。チームの各々が真剣に考え、前向きな意見が出たと思います。
- 今回のつながりを、具体的な活動へ発展させていければと思います。

今後の予定

第2回：2026.11.18（水）　第3回：2027.1.20（水）

デコ活 くらしの中のエコろがけ
茨木市 くらし産業環境部 環境政策課
TEL:072-620-1644
Email:kankyoseisaku@city.ibaraki.lg.jp